

GSM Newsletter

vol.10 / 2025.6

GSM Topics 若手研究者の声

GSM ニュース

エグゼクティブ教育

上級経営会計専門家（EMBA）プログラム

即戦力 CFO 養成プログラム

京都大学ソーシャル・コミュニケーションデザイナー養成講座

修了生の声

新講座のご紹介

GSM DAY 2025



GSM Topics

若手研究者の声

経営管理大学院では、個性豊かな若手研究者が教育と研究に取り組んでいます。今後ますますの活躍が期待される若手研究者をご紹介します。



interview

柳 淳也 特定講師

専門分野：
クリティカル・マネジメント・スタディーズ、
ダイバーシティ・マネジメント

どのような研究をされていますか？

現在、様々な研究をしていますが、私の中心的な関心事は、マイノリティや周縁化された人々がどう生き延びているのかという問いにあります。また、彼 | 女らが生き延びるために、私が何か少しでも彼 | 女らのためになる知識を蓄積できたらいいなという思いで研究をしています。具体的なプロジェクトとしては、LGBTQの起業家や、女性企業家の研究、企業内におけるダイバーシティ・インクルージョン実践の研究などを行っています。

研究の楽しさは、自分が知らなかったことを知ることができる点ですね。それも世界中の（おそらく）誰よりもはやく知ることができるようになることだと思います。



京都大学の研究者になるまでのストーリーを教えてください。

京都大学の研究者になるまでは、百貨店でワインの販売員をやったり、イタリアンレストランでワインのソムリエをやったり、ワインのECサイトでのお仕事など、ワインに関する仕事をしていました。その後、大阪市立大学大学院の博士課程に入学し、修了した後は、大阪府立大学（現在の大阪公立大学）で1年間働きました。その後、ご縁があり、京都大学経営管理大学院で働いています。



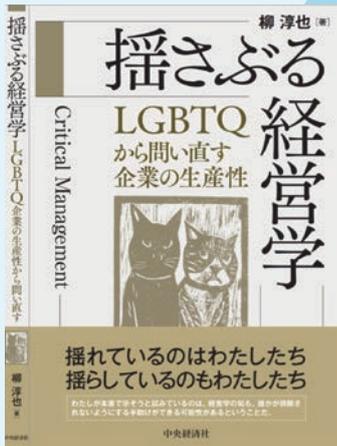
子どもたちに向けてダイバーシティ研修をされているとお聞きしています。

楽しいところ、苦勞されているところはありますか？

今でも、小学校や中学校に行き、LGBTQを含むジェンダー・マイノリティやセクシュアル・マイノリティ、ダイバーシティについて教える機会をいただいています。

楽しいところは、子どもたちから、その地域やその年代の今の流行りのものや、今面白いなと思っているものを教えてもらうことです。苦勞していることは、子どもたちに教えるという点ではあまりありません。子どもたちは、LGBTQを含め、多様性について学ぼうという意識が高く、また知識の吸収もとても早いです。敢えて言うなら、保護者の方などがあまり理解しておらず、その結果、マイノリティ性を持つ子どもたちがしんどい思いをしまっているケースに対して、あまりにも自分が無力だと思う瞬間です。一朝一夕ではやはり解決が難しく、論文を書いたり、講演をしたり、多方面の活動を通して社会の偏見を変えていく必要があるなと感じます。

Pick up !



揺さぶる経営学—

LGBTQ から問い直す企業の生産性

生産性至上主義に傾斜している経営学の本質を批判的に問い直す。とりわけ、今日話題となっているLGBTQをとりあげ、社会的課題と経営学との緊張関係を示す。

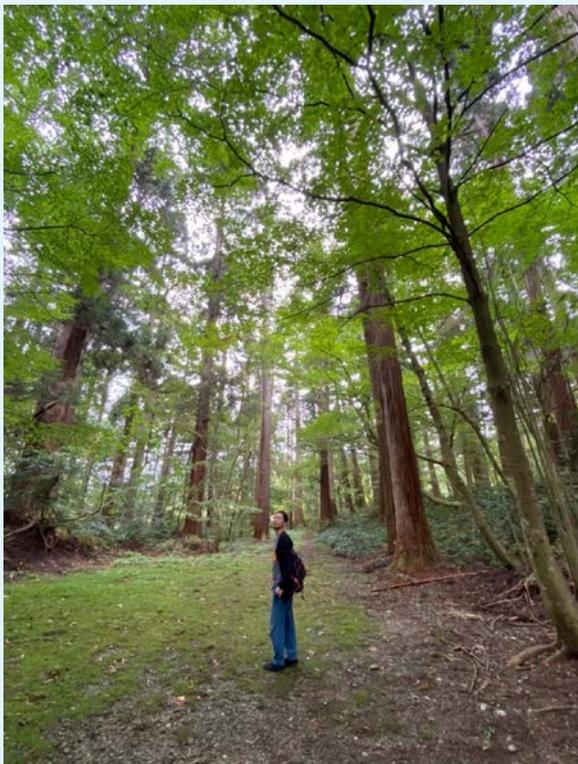
ご自身初の著作「揺さぶる経営学」は博士論文にもとづいて書かれたそうですね。

表紙にはご自身が制作された木版画が使われています。

エピソードがあればぜひ教えてください。

ある展覧会がきっかけとなり、木版画についての歴史を知り、自分の手で彫ることに決めました。木と彫刻刀さえあれば（文字が読めずとも）誰もが何かを主張することができる木版画が、歴史的に抵抗運動の一つとして用いられ、名もなき人々の声を伝えるものだったことに思いを馳せ、彫りました。木版画制作の詳細は、中央経済社のホームページで書いていますので、ぜひ読んでください。

<https://digital.chuokeizai.co.jp/n/n2aaa2d9ffb2?gs=e38f75671461>



日々のワークライフバランスについて心がけていることはありますか？

たくさん寝るようにしています！正直なところ、ワークとライフを切り離すということは難しいと感じています。なぜなら、自宅です仕事をする機会も多く、研究のことを考えることは教育のことを考えることでもあるし、遊ぶことが、研究や教育につながるものがたくさんあるからです。

観劇（この前、縁があり出演もしました！）や、趣味で友達とダンスをしたり、ボードゲームをしたり、小説を読んだり、ワインを飲んだり、私はたくさん余暇の時間を楽しんでいると思いますが、そうした時間をたっぷりとるからこそ、湧いてくる研究や教育のアイデアがあるわけです。そう正当化してたくさん遊んでいます。笑





interview

佐藤 那央 特定講師

専門分野：

組織論、デザイン、

エスノメソドロジー、エスノグラフィ

どのような研究をされていますか？

社会の変化を読み解く一つの手がかりとして、最近は「クラフト」概念とその関連事象について研究しています。いくつか具体的な研究対象を持っていますが、個人的には博士の頃から続けている日本のバー文化の研究が今だにメインピックです。パートナーさんとお客さんのやりとりの分析から始め、研究の一環として実際に自身がパートナーをやってみたり、スクールに通ったりもしました。深夜の祇園でお客さんにカクテルを出しながら、一体自分は何をやってるんだっか、と混乱することも多々ありました…。ともあれ、様々な角度から一つの文化の成り立ちと変遷を具に捉えていくことは、経営学においても重要なことですし、その意味でバーは色々な議論ができるとても良い研究対象だと自分では思っています。最近では、細々と続けて来た甲斐(?)もあってか、飲料メーカーさんにお声がけいただいてWeb ページに寄稿したり、本来はお話を伺う対象であるはずのパートナーさん向けセミナーで講義をするなど、やや倒錯したご依頼も頂くようになりました。このように、自分自身でテーマと方向性を決めて切り拓いていける自由さと(そして辛さと)、思いもしなかった繋がりや広がりや産まれることが研究の面白さなのかもしれません。バーの研究についてはそろそろちゃんと書籍などにまとめておけばと思いついて早数年。これを機に心を新たにバーにでも籠って原稿を練ろうと思います。



セミナーの様子

Pick up !

敗者の
つぶやき

Podcast「敗者のつぶやき」

▶出演 山内 裕 教授、佐藤 那央 特定講師

人文学とビジネスの交点を探る ー。

あらゆる場面で創造性が求められる現代。直感的に奇抜なアイデアを出したり、ロジカルに問題解決を目指すのではなく、社会をよく見て既存の意味のシステムからこぼれ落ちた時代の「敗者」に目を向けることで価値転換を試みる。この考えの背景にある人文学的視座や事例の読み解きを通して、次の時代をつくるアイデアを生み出すヒントを探ります。



洋酒天国 (現サントリーの広報誌)



オーセンティックバー

京都大学の研究者になるまでのストーリーを教えてください。

元々のバックグラウンドが細胞生物学ということもあり、修士を出た後は化粧品会社で商品開発をしていました。なので以前から研究職ではありますが、生化学や細胞培養といった全く異なる知識とスキルで仕事をしてました。そこから色々と思うことがあって、経営管理大学院に学生として入学しました。ちょうど京都大学デザインスクールが立ち上がった年で、私はその一期生としてお世話になりました。修士の後は情報学研究科に移って博士を取得し、北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)で2年間助教をしたのち、山内先生が立ち上げられた社会人向け講座、「京都クリエイティブ・アッサンブラージュ」の特定講師として京大に戻ってきました。現在その講座でご一緒している、京都市立芸術大学をはじめとする他大学の先生方は、デザインスクールの頃からのお付き合いなので、そういう意味では「デザイン」という概念も、企業を辞めて大学に戻ってからの10年ちょっと、ずっと自分の仕事の傍らにあるトピックです。

日々のワークライフバランスについて心がけていることはありますか？

考えたことがありませんでした…。程度の差はあれ、研究者の方は恐らく皆さんそうだと思うのですが、普段の生活で経験することや考えることがそのまま研究の切り口や具体的なアイディアに繋がったりと、何らかの形で糧になっているような気がします。その意味で、ワークとライフは切り離せないというか、そもそも何がライフで何がワークもよくわからない感じかもしれません。自分が好きでやっている分にはこれでいいのかなと思っていますが、確かにメリハリや健康も大切なので、あえて言うならば元々好きだった料理を毎日こまめに作り続けたり、走りに行ったりすることが今では唯一の息抜きなのかもしれません。

Related links

Kyoto Creative Assemblage

<https://assemblage.kyoto>

2024 年度 ベストティーチャー賞および優秀教育賞が選出されました

経営管理大学院では、その年度に最も質の高い授業を提供した教員を表彰するため、2009 年度より「京都大学経営管理大学院ベストティーチャー賞」制度を設けております。同様に、2019 年度より非常勤教員には「優秀教育賞」を授与しております。第 16 回目となる 2024 年度ベストティーチャー賞に竹中 毅 特別教授、優秀教育賞に菊地 唯夫 客員教授と前川 佳一 客員教授が選ばれました。



ベストティーチャー賞
竹中 毅 特別教授



優秀教育賞
菊地 唯夫 客員教授



優秀教育賞
前川 佳一 客員教授

2025 年度 新入生オリエンテーションを開催しました

4 月 2 日、経営管理大学院では専門職学位課程学生を対象に新入生オリエンテーションを実施しました。日本人学生 41 名、留学生 65 名、合計 106 名の学生が入学し京都での学生生活をスタートさせました。オープニングセレモニーでは澤邊 院長と同窓会会長 YANG DANNI さんによる祝辞があり、その後日本語プログラムと英語プログラムに分かれ、プログラム長から履修要件や学生生活に関する説明が行われました。オリエンテーションに続き在校生の院生協議会メンバーによる Welcome Party が開催され、新入生からの質問に在学生在が答える Q&A セッション、「人間ビンゴ」ゲームなどを通して学生同士や教職員との交流を深めました。



在校生（院生協議会）主催の Welcome Party



Welcome Party 後の集合写真

エグゼクティブ教育プログラム（履修証明プログラム）

2025 年度 7 月

第 9 期 開講

上級経営会計専門家（EMBA）プログラム

経営の羅針盤として経営を支援する管理会計専門家の育成

【概要】

本プログラムは、経営を支援する会計専門家の育成を目的としています。経営者に寄り添う最も身近なプロフェッショナルとして、会計専門家が経営を支援するためには、経営者が言葉にできていない「夢」や経営者が気付いていないような「強み」を引き出して、経営目的を明確にし、目的達成に向けた道筋を明らかにすることが重要です。

本プログラムでは、経営管理知識を体系的に習得したうえで、経営者の「夢」や「強み」を引き出す方法として「コーチング」を中心としたコミュニケーションスキルを実践的に学ぶことで、会計専門家が企業経営を支援するために必要な実践的能力の向上を図ります。

【プログラム内容】

①体系的な知識の修得

受講生が会計・監査・税務について専門的知識を有していることを前提として、会計専門家として経営アドバイスを行うために必要な知識を体系的に学ぶカリキュラムを提供します。理論的知識と具体的な事例の両面から体系的な知識の習得を進めます。

②実践的な応用能力の向上

修得した体系的知識や技術を実践的に応用する能力を向上させるため、実際に京都企業の経営者を招聘し、経営者の悩みや夢を引き出しながらそれぞれの企業の経営計画を策定するような実践的プログラムを提供します。会計専門家として経営者を支援するために必要なマインドセットと実践的ノウハウの修得を図ります。



プレゼンの様子

プログラム責任者のメッセージ

本プログラムでは、これまで 160 名を超える修了生を輩出してきました。経営者に寄り添う経営のプロフェッショナルである会計専門家に強く求められる「傾聴力」の向上に重点をおき、昨年プログラムをリニューアルしました。管理会計を中心とする学問的知識を習得し経営者が思い描く夢の実現をサポートしましょう！



澤邊 紀生 教授

2025 年度 6 月

第 2 期 開講

即戦力 CFO 養成プログラム

経営目標達成に向けての実行推進力として即戦力経営サポート人材の育成

【概要】

本プログラムは、変化する経営環境の中で活躍できる即戦力 CFO の育成を目的としています。近年、M&A や事業承継、資金調達といったファイナンスの重要性が高まっており、CFO には単なる財務管理にとどまらず、戦略立案や実行、さらには金融機関との交渉など、経営のパートナーとしての高度な役割が期待されています。このようなニーズに応えるため、本プログラムでは実務に即したテーマを通して、CFO に求められるスキルセットの習得を支援し、受講者の実践力と付加価値を高めることを目指しています。

また、単に知識を学ぶだけでなく、それを実践できる能力の育成に重点を置いています。実際の事例に基づいたケーススタディを通じて、受講者は意思決定のプロセスを疑似体験し、自らの判断に責任を持つ姿勢を養います。さらに、意思決定を実行に移す力やリーダーシップを体得することで、企業経営をリードする能動的な人材としての資質を磨きます。

企業の成長と持続的発展を支えるために、経営判断と実行責任を一体的に担えるプロフェッショナルの育成を図る教育プログラムです。



課題に取り組む受講生の様子

プログラム責任者のメッセージ

これからの時代、自ら経営と実務をドライブする CFO が勝ち残ります。即ち、組織力も然ることながら、個の実力が周囲を巻き込み企業や社会を動かします。そういうドライブを目指す方、共に「自分との対峙」を楽しみましょう。



太田 一郎 特定教授

2025 年度

7 月 東京 第 1 期 開講 / 11 月 京都 第 2 期 開講

京都大学ソーシャル・コミュニケーションデザイナー養成講座

社会の様々な場面で、コミュニケーションの仕組みをデザインする専門家を育成する履修証明プログラム

【概要】

京都大学ソーシャル・コミュニケーションデザイナー（SCD）養成講座は、社会のあらゆる場面において、デザインの視座からコミュニケーションを推進できる人材を育成する実践型プログラムです。現代社会が抱える複雑な課題に対して、「誰ひとり取り残さない社会」の実現を目指し、社会の構造や関係性に働きかける“仕組み”をデザインできる力の育成を目的としています。

本講座では、アート、教育、医療、地域づくり、メディア、ソーシャルビジネスといった多様な分野の専門家が講師を務め、受講生も職種や年齢、経験が異なる多様な背景を持つ方々が集まります。

講義は一方向型ではなく、グループワークやディスカッションを重視しており、多様な他者と関わりながら違いを認め合い、新たな価値を共創するプロセスを経験することができます。こうした学びは、実践現場においても「見えにくい声」をすくい上げ、社会の中で機能する新たな仕組みを構想・設計する力へとつながると考えています。



受講生同士のグループワークの様子



第 1 期の講座風景（2024 年 6 月 8 日撮影）

【プログラム内容】

本講座は、京都大学経営管理大学院が提供する全 60 時間の「履修証明プログラム」です。すべて対面形式で実施され、内容は「演習（30 時間）」「研修（9 時間）」「実習（21 時間）」の 3 科目で構成されています。演習では、アーティストや研究者、起業家、メディア制作者など多彩な講師陣から、各現場における実践知を学びます。研修では、社会的課題に取り組む実践者のリアルな取り組みに触れ、課題の捉え方や向き合い方について理解を深めます。そして後半の実習では、受講生同士でチームを組んで「仕組みのデザイン」に挑戦します。対象とする社会課題や受益者を具体的に設定し、実現可能性と持続性のある提案を構築することを目指します。

修了要件を満たした方には、京都大学より履修証明書が発行されます。学びを証明する公的な資格として、キャリア形成にも活用できます。

【募集情報】

2025 年度は、夏に東京（第 1 期：7 月～9 月）、秋に京都（第 2 期：11 月～翌 2 月予定）での開講を予定しています。募集要項、出願期間、詳細な日程等は、下記 WEB サイトをご覧ください。

また、公式 note では修了生インタビューや講座レポートなども掲載中です。

▶ WEB サイト

<https://art-cd.gsm.kyoto-u.ac.jp/scd/>



▶ 公式 note

https://note.com/scd_official



プログラム責任者のメッセージ

本講座では「誰ひとり取り残さない」という理念を掲げていますが、それを建前で終わらせず、実践し、仕組みに落とし込むことは容易ではありません。現場で悩みながらも、より良い社会に向けて働きかけたい方からのご応募をお待ちしています。



蓮行 特定准教授

Delmar Zakaria Firdaus さん

i-PM 国際プログラム
2024 年度修了生



在学中、印象に残った出来事

What impressed me most about the GSM Kyoto University was its diverse and dynamic learning environment, enriched by students from various international backgrounds. This diversity fostered insightful discussions and broadened my perspective on global business challenges and solutions.

Additionally, GSM integrates a Western-based business curriculum with the ethical and cultural foundations of Japanese management, offering a unique blend of theory and practice. This approach provided a deeper understanding of how business strategies can be effectively adapted across different cultural and economic contexts. Another standout aspect was the school's perspective on entrepreneurship, particularly in Japan and more specifically within Kyoto's ecosystem. Kyoto's business culture, deeply rooted in tradition yet highly adaptive, highlights the importance of resilience - a key trait for sustainable business success. Learning from this environment has given me valuable insights into how innovation and long-term vision can coexist within a strong ethical framework.

Lim Sing Yee さん

i-BA 国際プログラム
2024 年度修了生
(進学) 経済学研究科博士後期課程



在学中、印象に残った出来事

Some of the courses offered by GSM invite guest speakers from various industries. They brought in experts from various industries, including semiconductors, finance, banking, consulting, and the newspaper industry. The extensive network of industry connections that GSM has across Japan is astonishing, and it provides valuable opportunities for us to engage with professionals and gain more real-world insights.

現在の進路を選んだ理由

The pursuit of knowledge is endless, and I have chosen to seize this opportunity to pursue a PhD at the Graduate School of Economics. The courses offered at the Graduate School of Management fuel my passion for research and education. Deciding between returning to the workforce or continuing with a PhD has been a challenging choice. On one hand, industry offers financial stability, while academia demands a deep passion for knowledge. Fortunately, GSM equips us with both paths through workshops and a diverse range of courses. In the end, I chose to follow my heart and pursue a PhD, as this is where my true passion lies.

平元 麻也香 さん

ファイナンス・会計プログラム
2024 年度修了生



GSM で学んだこと

GSM では理論と実践を融合し、経営の最前線で活躍できる力を養える場です。私自身GSMでの学びを通じて、ファイナンスの理論と実践、マーケティング手法を実務的なケーススタディを通じて、より体系的に深く学ぶことが出来ました。また、共に学ぶ仲間から得られるものも私にとって非常に大きな財産となりました。GSMには、多様なバックグラウンドを持つ仲間が集まり、それぞれの専門知識や経験を共有し合う環境が整っています。特に私が感じたのは、プレゼン資料の作成スキルです。論理的な構成や視覚的に訴求力のあるスライドデザインを学び得た事で、短時間で効果的に伝える能力を磨くことができました。グループワークやプロジェクトを通じて、大きくスキル向上に繋げる事が出来たと感じております。これにより、ビジネスの現場でも即戦力となる能力を身につけることができたかと自負しております。GSMではキャリアに応じた学びを得る事ができ、自らの可能性を広げることができます。仲間と共に切磋琢磨することで、自分一人では見れない景色を見に行くことが出来たと感じております。そのように考える私にとってGSMは最適な学びの場でした。是非この環境を活かし仲間と共により遠くの景色を見に行きましょう！

山本 健人 さん

観光経営科学コース
2024 年度修了生



GSM で学んだこと

GSMでの学びは、単なるビジネス理論の習得にとどまらず、実践の場で生かせる知識と、多様な人との出会いを通じた新たな視点を得られる場でした。私は、在学中に能登半島地震を契機に起業を決意し、同級生の力強いサポートを受けながら宿泊施設を開業しました。その過程で、経営理論や財務分析だけでなく、地域住民との関係構築や、日々の業務の中で直面する課題解決の重要性を学びました。

GSMには、多様なバックグラウンドを持つ学生や講師が集い、自由な議論を通じて新たな視点を獲得の機会が豊富にあります。また、学びを実践に移す環境も整っており、自ら動くことで、より深い学びと成長を得ることができます。

ビジネスの世界では、知識と実践をいかに融合させるかが重要です。GSMは、その力を身につける最適な環境です。新たな挑戦を求める皆さんが、この場で多くを学び、自らの可能性を広げることを期待しています。

島川 将さん

ビジネス・リーダーシッププログラム
2024 年度修了生



GSM で学んだこと

GSM で最も大きな学びは、グループワークの大切さです。年齢、性別、国籍、そしてバックグラウンドも異なるメンバーと意見を交わす中で、自分一人では到底生まれなかったアイデアが生まれる瞬間が何度もありました。「多様性」が叫ばれる今、共通の目標に向かって異なる価値観を持つ人たちと力を合わせるこの意味を、実体験として学ぶことができました。

在学中、印象に残った出来事

最も印象に残っているのは、1年間にわたるワークショップの集大成として行われた最終発表会で最優秀賞を受賞したことです。私は、世界的に EC 化が進む中で、日本は EC 化率が低く、またコロナ収束以降に実店舗回帰の傾向を見せている背景について分析しました。論文とレポートの違いも分からなかった私に対して、指導教官の門傳藍香先生が丁寧に指導くださり、特に仕上げの期間は連日の連絡にも対応くださり、なんとか完成までたどり着くことができました。また、データ分析では竹中毅先生から最終アウトプットまでの道筋を明確に示していただき、実証分析の流れを理解することができました。この経験は、私の自信と学びの大きな礎となっています。

殷悦さん

プロジェクト・オペレーションズ
マネジメントプログラム
2024 年度修了生



授業以外に取り組んだこと

まず一つ目は、京都での生活を通じて日本文化に深く触れることができたことです。祇園祭や五山の送り火、時代祭、嵐山の紅葉ライトアップなど、京都ならではの伝統的な行事を実際に体験し、日本文化の奥深さを肌で感じることができました。二つ目は、M1 の後期から本格的に就職活動に取り組んだことです。授業との両立は決して簡単ではありませんでしたが、自己分析や企業研究を進め、最終的には自分に最も合った企業から内定をいただくことができました。

現在の進路を選んだ理由

私は卒業後、メガバンク系 IT ソリューション企業にシステムエンジニアとして就職することを選びました。この進路を選んだ背景には、GSM での学びが大きく影響しています。まず、GSM で金融やマネジメントを学ぶ中で、金融 × IT の分野に強い興味を持つようになりました。また、GSM での多様な学生とのグループワークや、実務科目でのプロジェクト経験を通じて、多文化理解力やプロジェクトマネジメント力を養うことができました。今後は、そうした力を活かしながら、システム開発や導入プロジェクトを主体的に推進し、将来的にはグローバル案件にも積極的に関わっていきたいと考えています。

春原 頌子さん

サービス&ホスピタリティプログラム
2024 年度修了生



在学中、印象に残った出来事

人事関連の研究に取り組むべく、関口先生の WS に配属していただきました。関口 WS は博士課程との合同開催で、所属員は熱意ある優秀な方ばかり。所属員の皆さんが、私の拙い研究に対して毎回鋭い指摘やアドバイスを下さり、非常に勉強になりました。研究テーマの選定にはかなり悩みましたが、関口先生の「本当にやりたいことをやるべき」というアドバイスに則り、自身が常々問題意識を抱いていた「転勤」(転居を伴う人事異動)を取り扱うことにし、質的調査を実施しました。毎回の WS において、先生からいただくコメントは示唆に富んでいて、一言も漏らしてはなるまいと一生懸命メモを取ったものです。30 名弱の女性総合職の方々にインタビューにご協力いただきましたが、どの方のキャリアストーリーも唯一無二で、分析したいことは増える一方。結局、自身の力不足で、分析したいことの半分も分析出来ませんでした。最終報告会における最優秀賞と、京都大学 SDGs Award 研究部門賞を受賞できたのは、先生のご指導と WS メンバーのサポートのおかげです。

研究結果は所属企業にも報告しており、実務にどう活かしていけるかを画策中です。また、WS を通じて研究の面白さと重要さを知りましたので、細々とでも転勤の研究を続けたいと思っています。

清水 杏奈さん

京都大学-コーネル大学
国際連携コース (KC-CDO)
2024 年度修了生



GSM で学んだこと

学び続けることの大切さと、学びへの情熱を共有する多様な仲間に出逢える場の有難みを学びました。

何事に於いても不確実性が高い現代では、大学院の修了はひとつの節目ではあってもゴール(学びの終着点)ではないと感じます。GSM ではそれを十二分に踏まえた教授陣が、正解そのものでなく「夫々の正解」を導き出す為に必要となる論理的思考力を鍛える機会と材料を提供してくださいました。クラスメイト達ともただ卓を並べるのではなく、助け合い学び合う精神が GSM 内に醸成されており、さまざまな個性と経験を持つ仲間達からグループワーク等を通じて受けた刺激は常に私のモチベーションの源泉となっていました。

今後も学びに対する貪欲さを失わないこと、そしてここで得たかけがえのない仲間との縁を繋ぎ続けていくことが、GSM 修了生としての責務だと思っています。

新たに開設した寄附講座をご紹介します

新会計人養成寄附講座



設置期間

2024/8/1 ~ 2027/7/31

寄附者

辻・本郷 税理士法人

本講座では、企業や会計事務所におけるリーダーとしての役割を果たすために必要なスキルと視点を提供します。企業において、CFO は会計部門のリーダーであることに加え、CEO とともに新たな事業を創造し、競争力を高めていきます。また、会計事務所においては、所長やパートナーとして成長戦略を推進し、若手会計人の育成を担うことが不可欠です。企業と長期的な関係を構築する会計人は、とくにファミリービジネスの戦略的意思決定を支援する役割を果たすことが期待されます。本講座は、こうした企業人・会計人に求められるプロフェッショナル・リーダーシップを体系的に学ぶことを目的としています。

UACJ 寄附講座



設置期間

2025/4/1 ~ 2030/3/31

寄附者

一般財団法人 UACJ 軽やか財団

本寄附講座では、企業財務・企業風土・人的資本の関係、並びに資本コストと資本効率を意識した経営をテーマとした実践的な研究と教育を行います。本寄附講座の寄附元である株式会社 UACJ は、2013 年にアルミ圧延業界における国内トップ 2 社(住友軽金属と古河スカイ) が経営統合をして誕生した企業です。経営統合後は、両社の従業員の融和を図り、新しい企業風土を浸透させる様々な取組みが行われてきました。近年では、人的資本経営と資本効率や株価を意識した経営を実践しています。本講座では、事例研究やデータ分析を適用した研究を行い、研究成果を活用した教育を行います。

ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン寄附講座

UNITED MANAGERS JAPAN INC.

ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン株式会社

設置期間

2025/4/1 ~ 2028/3/31

寄附者

ユナイテッド・マネージャーズ・ジャパン株式会社
(代表取締役社長 小柴 正浩)

本寄附講座では、日本の証券投資および資産運用業界の構造分析、マルチ戦略ファンドの優位性の研究、AI・機械学習を活用した投資運用プロセスの高度化、独自の定量分析モデルおよび評価システムの開発を目指します。また、講義やワークショップの実施のほか、最新の投資技術に関するセミナーや実務家を講師とした教育プログラムなど、学生・研究者を巻き込んだ実践的な教育も展開していきます。

キュレーション理論・実践とマネジメント寄附講座

Curation Theory, Practice and Management

設置期間

2025/4/1~2028/3/31

寄附者

牧 寛之

本講座では、キュレーションならびにキュレーターの思考法や価値を明らかにし、理論化・一般化への研究を進めることによって、芸術と企業実務の融合的な理論として、その実践とマネジメントの確立を目指します。

本講座は長くキュレーターとして活躍してきた芸術関係者や、企業のデザイン部門に所属し、マネジメント経験のある実務家、文化経営理論の研究者等によって構成されています。その繋がりから芸術家やキュレーター、展覧会の調査、ならびに国内外における展覧会やセミナー等のプロデュースなど実践的な活動と研究を行います。

京都大学経営管理大学院 2024 年度 修了記念春季イベント実施報告 “GSM DAY 2025 International Networking Event for all GSM People”

京都大学経営管理大学院同窓会は、京都大学時計台 100 周年記念館 2 階国際ホールにて、2024 年度の修了生の卒業を祝い、GSM DAY 2025 を開催しました。教職員、同窓生、修了生、現役学生など、海外からの 37 名を含む 156 名が参加し、大盛況のうちに終えることができました。下記のスケジュールに従い、院長の言葉、Alexandra Carst 先生らによるスピーチ、優秀修了生らによるスピーチに加え、日本文化紹介として祇園祭長刀鉾祇園囃子保存会による祇園囃子披露、退職教員への花束贈呈、および立食形式のレセプション・パーティーを開催しました。参加者およびご協力頂いた方々に感謝いたします。



日本文化紹介 長刀鉾祇園囃子保存会による祇園囃子披露

【当日のスケジュール】

院長挨拶と乾杯／澤邊 紀生 教授
同窓会会長挨拶／Yang Danni さん
日本文化紹介／長刀鉾祇園囃子保存会 代表 西村 良則 様、
修了生 徳力 創一郎 さん、長刀鉾祇園囃子保存会の皆様による祇園囃子披露
英語プログラム歓迎の挨拶／Alexandra Carst 特定講師
2024 年度優秀国際修了生スピーチ／Huo Xingyu さん
2024 年度優秀修了生スピーチ／菊地 学 さん
修了生へのことば／関口 倫紀 教授
退職教員への花束贈呈／板倉 信一郎 特定教授、江尻 良 特別教授
閉会の辞／若林 直樹 教授



記念写真 澤邊 紀生 院長と同窓生



同窓会会長挨拶

Yang Danni さん



英語プログラム歓迎の挨拶

Alexandra Carst 特定講師



2024 年度
優秀国際修了生スピーチ

Huo Xingyu さん
i-BA 国際プログラム修了生



閉会の辞

若林 直樹 教授

GSM 同窓会総会・講演会・レセプションを開催します

日時 2025 年 10 月 4 日 (土)
会場 京都大学国際科学イノベーション棟 5 階ホール
時間など詳細は決まり次第、会員あてメールマガジン等で
ご案内します。

GSM Newsletter vol.10

〈発行〉

2025年6月

京都大学経営管理大学院

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

URL : <https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp>

